

7/17

議員全員協議会

Q 今の正規の職員数では、若干不足する予想。

A 浅貝保育園の園児数は2名となるが、送迎の体制は。

Q トイレ付きの送迎バスを購入は保護者が送迎。

A 認定子ども園は大規模。経費の計画は。

Q 220人規模、職員体制は現在と同程度で運営。

A 小学校のスクールバスは。

Q 浅貝地区は同様の運行委託、土樽地区・堀切地区は今後の協議による。

◆ その他

● 学校等の利用について

統合後の学校校舎利用方法について、6月20日まで意見募集を行なった。提案書が3件、使用要望が5件、その他1件。

◆ 越後湯沢・地域活性化ワークショップリレーについて

今までJR東日本と湯沢町の関係各機関が共生の理念に基づ

いて、話し合いをしてきた。今後はテーマを絞った将来像などを話し合ったらどうかという、JR東日本からの提案。

湯沢町スキー伝来100周年と上越新幹線開業30周年プレイベントイン湯沢「レルヒさんを探せ」についての説明。

● 統合文教施設について

▼ 執行部からの説明
第1回の入札が不調に終わったが、中学は危険建物なので一日も早く建設に入りたい。

○ 資格指名委員会協議の結果、特定共同企業体を追加公募し、今回はゼネコン1社に町内業者は、1社で可とする。

○ 新たな入札に向け設計書を見直し、また歩切り分を戻す。

▼ 建築は、内装を一部一般品に変更し減額、除雪費・交通誘導員、諸経費も見直し。

▼ 機械設備は、材質変更の増額、最新単価の入れ替えて増額、諸経費の見直し。

▼ 電気設備は、総合盤とケーブルの変更で減額、LED照明器具で増額、諸経費の見直し。

○ 設計書見直しによる予定事業費の増額で、文教施設整備の

総事業費を、現行の41億円を47億円に、6億円の追加補正を次の議会でお願したい。

▼ 主な質疑

○ 業者選定について

Q 法と規則に基づいているのだろうか、どう考えるか。

A 3億円以上は特定企業体条件緩和により、多くの町内業者に参加してもらいたい。

Q 一番手間のかかる選択肢だが、日程はどうなる。

A 7月末の臨時議会で継続費の増額が決まれば、特定企業体の追加募集をし、入札は9月、同月議会で承認の運び。

○ 設計書見直しについて

Q 工期は間に合うのか。

A さらに厳しい工期となるが、間に合わせたい。

Q 地元設計士の指導は。

A オブザーバーの立場で……。

Q 設計見直しで、どう減額できたか。

A 減額する方向で見直したが、1割程度カットした部分を戻したことが増額に響く。

○ 継続事業費の増額について

Q 41億円を超えない大前提だった。長期財政計画に湯沢高原の支出も含まれていないのに、ここへ来て6億円の支出に、ここへ来て6億円の支出に、その根拠はどこにある。

A 6億円は高額だが、見直しにより出てきた数字。補助金1億円、起債4億円、一般財源1億円。

Q 38億が41億、それが47億。町民にどう説明するのか。

A 広報等を通じ、町民にも丁寧に説明をして行く。

Q 増額理由を町民から聞かれても説明できないが。

A 一番大きな要素は、歩切り分を戻したこと。

Q 再入札に向けて3案あった。ゼネコン単体での入札は。

A もう一度、同じ土俵で条件を緩和し、町内業者のためにやってみたい。

Q 設計書の見直しに、湯沢在住の建築士に意見をもらわないのか。

A 見直し部分の確認はしてもらっていない。

Q 見通しが甘かったということ。これまで含め説明をするのか。

A これから詰める。

● 財政力関係の報告

最後に調整率が入り、今年度も不交付団体。その差額、約200万円。

再入札へ向けて
事業費 6 億円増額の提案

7/25

議員全員協議会

財源内訳【口頭】

国県支出金	13.90 億円
地方債	20.00 億円
基金繰入	12.04 億円
一般財源	1.06 億円